

● ————— 卷頭言 ————— ●

本臨時増刊号では、日常眼科外来診療の現場で診断や治療を進めていく際のポイントとともに、ある一線を越えた場合やはじめから一線を越えている病態に対して、より高度で適切な医療を提供すべく、然るべき医療機関に紹介するタイミングに焦点を当て、それぞれの分野の専門家の先生にご執筆いただきました。むろん、紹介が必要な疾患や病態の全てを本誌一冊の中で取り上げることは不可能ですが、角結膜、白内障・屈折矯正、緑内障、網膜硝子体、ぶどう膜炎、眼瞼・眼窩・腫瘍、小児・神経眼科の各領域において、診断のピットフォールや紹介のタイミングを大変わかりやすく解説していただいております。

2024 年 10 月

後藤 浩・記